

# ひらた中央病院



ひらた中央病院  
坂本 和太 医師

## お薬のお話 ～前編～

誰しも年を重ねると病院にかかり、お薬をもらうようになります。ただし、使い方を間違えたり、付き合い方を知らないと、健康被害が生じる危険性もゼロではありません。今回と9月号の2回にわたり、お薬に関し何点か触れてみたいと思います。

### ① 処方内容把握の重要性

いま自分が飲んでいるお薬が、何の薬かぜんぶ分かってらっしゃる方はどれだけいらっしゃるでしょうか？

おくすり手帳(あるいは添付される説明書き)には、その薬効が簡単ではありますが必ず記載されています。でも、お薬の種類が多かったり、字が小さかったり、様々な理由で把握しきれない方も多いのではないのでしょうか。診察の時に質問すると、正確に答えられない方が多数いらっしゃいます。ご自身で難しくければ、ご家族で共有しておくのはいかがでしょうか？もしご具合が悪くなって運ばれたとき、そのほうが安心かもしれません。

なお、患者さんの中には、ご自身の病気やケガを全てメモにまとめて持ち歩いている方もいらっしゃいます。それを見ると医療者として一目で分かるので、非常に助かります。可能な方は、ぜひマネをしてみてください。

### ② おくすり手帳の大切さ

おくすり手帳は、1995年の阪神淡路大震災のあと急速に広まり、私の印象としては、さらに2011年の東日本大震災以降、現在のように普及しました。災害で病院もカルテも止まってしまった際、ご自身の健康を守るうえで大きな効果を発揮します。

ここで皆様に覚えておいていただきたいこ

とは、必ず、どんな症状で、どんな医療機関を受診するときも、よっぽど緊急でない限り、おくすり手帳をご持参ください。そうでないと、すでに処方されているのと同じお薬が出たり、飲み合わせの悪いお薬が出されたりすることがあるからです。また、おくすり手帳を医師が見ることで、いま治療している病気が類推できたり、あるいは体の状況を予想することができる場合があります。様々な情報を得られるメリットがあるのです。

お薬に関して聞きたいことは、処方している医師、または処方薬局の薬剤師さんにお気兼ねなくお聞きください。

次回、9月号の後編へ続きます。



ひらた中央病院 ☎55-3333